

高等学校 第2学年 E 球技 ゴール型「バスケットボール」

単元目標

知識及び技能	バスケットボールについて、勝敗を競ったりチームや事故の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防することができるようにする。									
思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えを伝えることができるようにする。									
学びに向かう力、人間力等	バスケットボールの学習に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするとともに健康安全を確保することができるようにする。									

※共：単元全時間を男女共習で実施

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ねらい	○バスケットボールの基本的な動きを身につける ○バスケットボールの特徴や課題を発見する ○男女混合のゲームの楽しむためのルールを発見する											
導入	○準備運動 ○本時の学習内容の確認											
展開	【オリエンテーション】 ○単元の説明 ○既習内容の確認 ○安全面の確認 ○グループ分け 《共習》 ・男女混合2チーム共習 ・男女別ゲーム ○確認のゲーム											
終末	○本時の振り返り ・個人の課題発見・解決方法 ・体育カードへの記入											
【基本的な技能の反復練習】《共習》・ドリブルドリル・ミートシュート・レイアップシュート ※4時～12時：2対2・3対2												
【個人の課題に応じた練習】 ・チーム内での教え合い 共：(1)生徒同士話し合いながら動きを高めるための仕掛け 【5対5のゲーム】 《共習》 ・男女混合 ・選手交代は自由 ・ルールの発見												
【個人の課題に応じた練習】 ・チーム内での教え合い 共：(2)生徒全員が活躍できる場の工夫 【コフボール】 《共習》 ・男子5人 女子3人 ・ディフェンスは同性のみ ・交代は同性同士のみ ・パスのみ												
【個人の課題に応じた練習】 ・チーム内での教え合い 共：(1)生徒同士話し合いながら動きを高めるための仕掛け 【5対5のゲーム】 《共習》 ・男女混合 ・選手交代は自由												
【個人の課題に応じた練習】 ・チーム内での教え合い 共：(2)生徒全員が活躍できる場の工夫 ・チームの課題発見や解決方法 ・男女混合ゲームの楽しむためのルールづくり ・体育カードへの記入												
【個人の課題に応じた練習】 ・チーム内での教え合い 共：(1)生徒同士話し合いながら動きを高めるための仕掛け 【5対5のゲーム】 《共習》 ・男女混合 ・選手交代は自由												
【個人の課題に応じた練習】 ・チーム内での教え合い 共：(2)生徒全員が活躍できる場の工夫 ・チームの課題発見や解決方法 ・男女混合ゲームの楽しむためのルールづくり ・体育カードへの記入												

知識・技能												
思・判・表												
主			③									①
												総合的評価

評価規準	【知識・技能】 ①侵入する空間を作り出すために、チームの作戦に応じた移動や動きができる。 ②得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割について言ったり、書いたりしている。
【思考・判断・表現】	①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ②練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。
【主体的に学習に取り組む態度】	①作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

技能差にかかわらず、自分の考えを伝え合うことができる工夫を通して
 高等学校第2学年 E 球技 ア ゴール型「バスケットボール」

1 単元の見目標

- 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防することができるようにする。
 【知識及び技能】
- 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】
- 学習に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするとともに健康・安全を確保することができるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 生徒同士で話し合いながら動きを高めるための仕掛け

①学習形態

課題解決に向けた練習を行うために、2グループ（男女混合）を編成し、習熟度の高い生徒（以下 ST）を各グループに配置したグループ活動を行った。練習やゲームでは、ST を中心に運動が苦手な生徒も活躍できる動きを話し合い、全員が活躍できるようなプレイを考えていた。また、きょうだいチームを設定したことで、互いに問題点を指摘しアドバイスしたり、良かった点を伝えたりする姿が見られた【資料1】。



【資料1 グループ活動の様子】

(2) 生徒全員が活躍できる場の工夫

①ルールの工夫

運動が苦手な生徒と協力して楽しく活動することができるように、男女混合のみが正式ルールであるゴール型種目「コーフボール」を参考にしたゲームを行った。授業後の感想では、男女ともに活動量もあり、男女一緒に活動することの楽しさを実感しているといった記述が見られた。また、「男子→女子→男子の順で交互にパスまたはシュートをする」「コートや得点に制限を設ける」といった誰もが全力でプレイできるようなルールを自分たちで決めていた。また、ルールについては見直したり、相手チームと合意形成を図る場を設定したりしながら、協力して活動する楽しさを見付けていた【資料2】。



【資料2 ルールを工夫してゲームをしている様子】

②ICTの活用

個人の動きやチームの連携した動きの練習等を通して、良かった点や問題点を指摘し、課題解決につながる活動を行うために、ICTを使い動画を撮影した。撮影後は、きょうだいチームも含め、個人やチームの動きを確認しながら、話し合い活動を積極的に行っていた。繰り返し撮影することで、今までの動きと比較することもでき、成長を実感していた。STが運動を苦手としている生徒に撮影した動画をもとに教え合いをしている姿も見られた【資料3】。

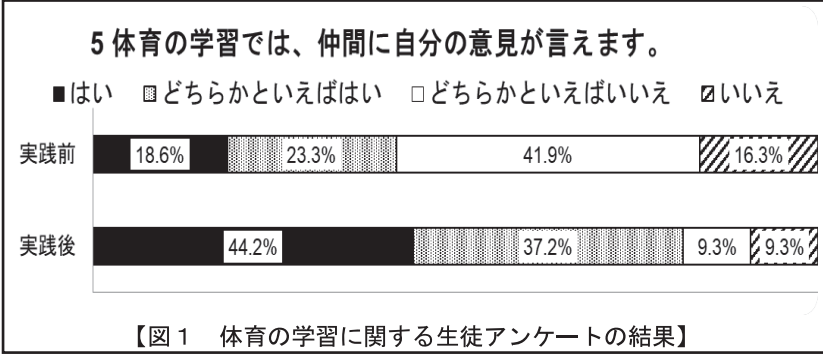


【資料3 ICTを使って動きを確認している様子】

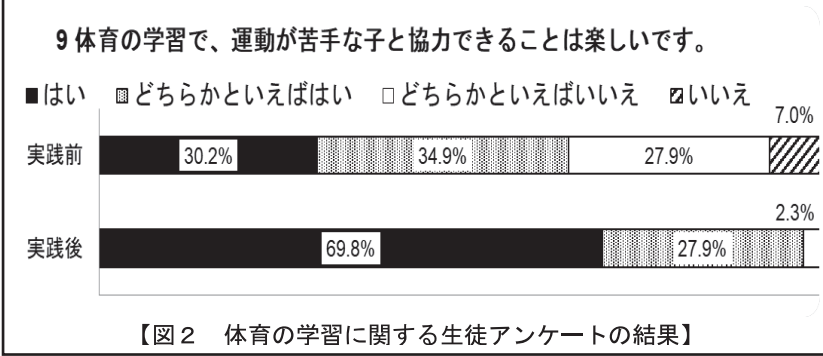
3 成果と課題

(1) 成果

「体育の学習に関するアンケート」において、「体育の学習では、仲間に自分の意見が言えます」という項目で、「はい」「どちらかといえばはい」と回答した生徒が増えた【図1】。これは、STを設定したグループ構成を行い、課題解決に向けた話し合い活動を行ったからだと考える。体力差に関わらず全員が楽しさを味わうためにルールを工夫しながら合意形成を図る場面を設定することができたからだと考える。また、ICTを活用して、動きを撮影したことによって、自己やチームの課題が明確になり、STを配置したグループ活動を行ったことで学び合い活動が充実できたからだと考える。



また、「体育の学習で、運動が苦手な子と協力できることは楽しいです」という項目でも、「はい」「どちらかといえばはい」と回答した生徒が増えた【図2】。これは、全員が協力しながら楽しんで活躍できるようにルールの工夫を行ったゲームを展開したからだと考える。

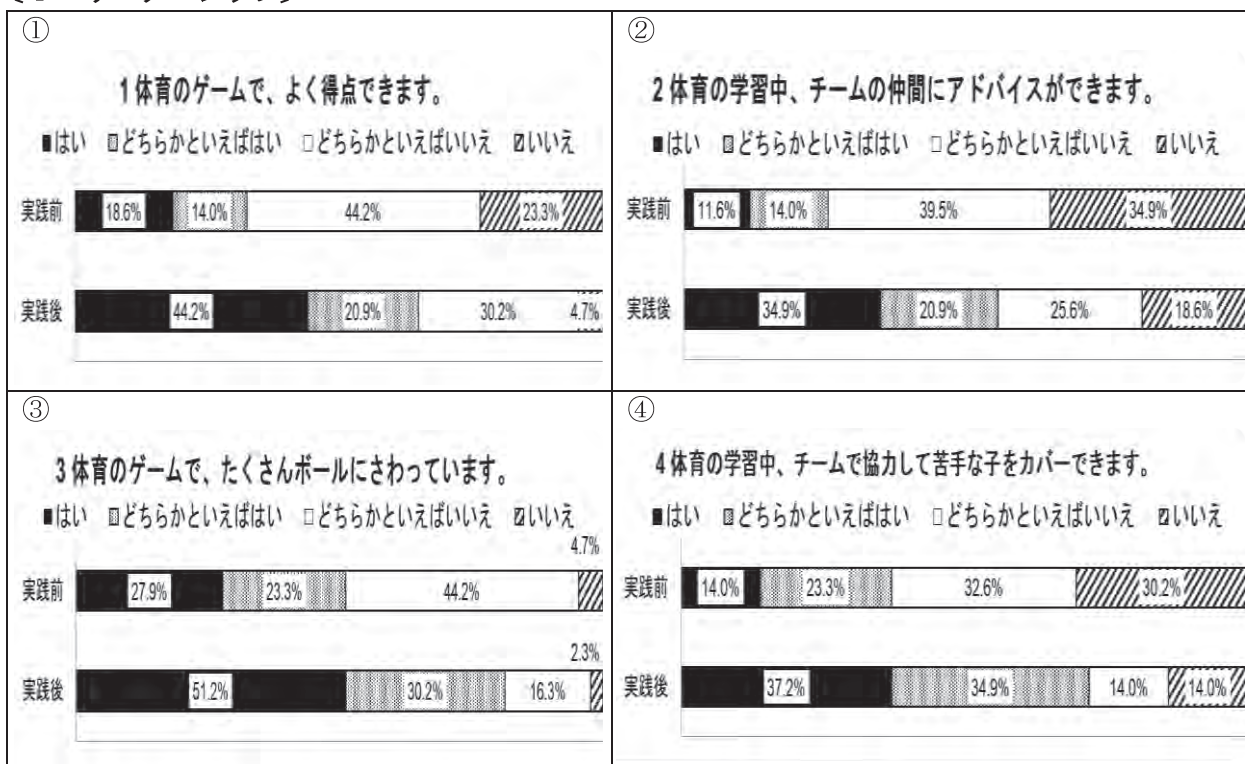


(2) 課題

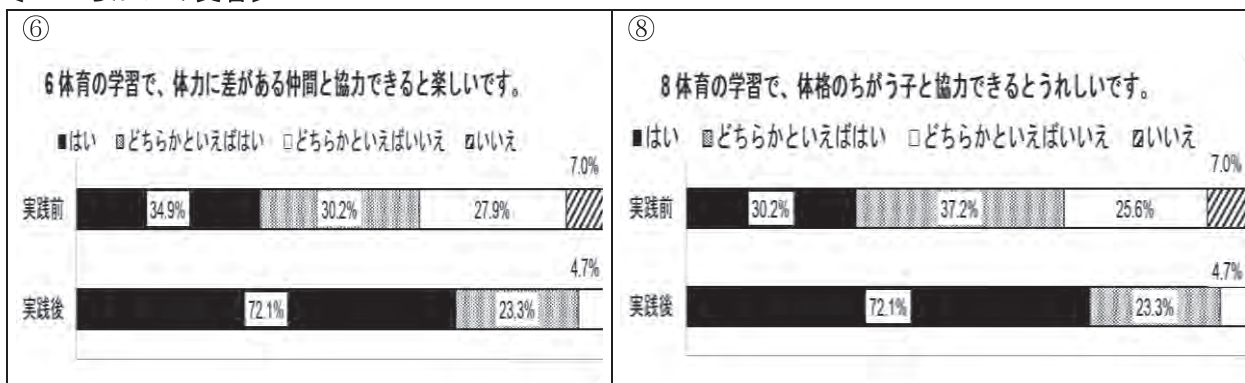
- 単元全体を通して、さらにゴール型の特性を味わわせるために、男女混合で行うゲームや男女別で行うゲームをバランスよく計画し、授業を展開していきたい。
- 自分の考えを伝え合うことができるようになってきたが、思考力、判断力、表現力等の評価方法や評価の機会の設定が十分ではなかった。今後は、評価基準をより明確化し、ICTを活用しながら、評価方法等を工夫していく必要がある。

【児童生徒の変容】

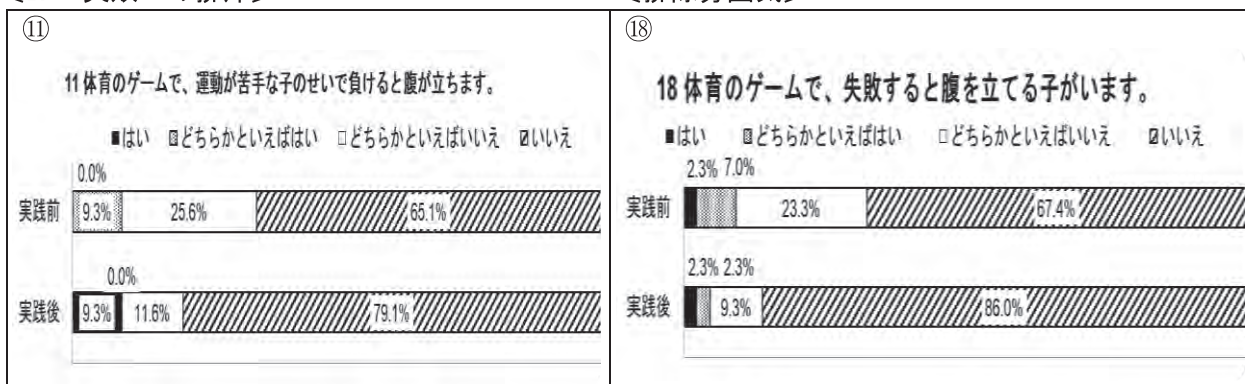
〔Ⅰ リーダーシップ〕



〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅳ 失敗への排斥〕



【授業実践協力者の声】

男女共習で実践したので、高校生では体力に差があり、お互い楽しめないのではないかという不安がありましたが、ルールの工夫等により、生徒は十分に楽しさを味わうことができました。

